

リーベル通信



発行責任者：八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」

住所：八女市本村 425-9

電話：身体しょうがい・知的しょうがい・しょうがい児 0943-22-2610

精神しょうがい 0943-22-2630



新年のごあいさつ



「やさしい八女市」「安全安心な八女市」を目指して。

皆様明けましておめでとうございます。

私は、昨年の市長選挙におきまして、多くの皆様のご支援をいただき、当選の榮に浴することができました。これもひとえに皆様方の力強いご支援と温かいご厚情の賜と、心からお礼申し上げます。

まずは、2町2村との合併を円滑に行い、新「八女市」の実現に最善の努力を傾注して参りますので、今後ともどうぞよろしく願います。

さて、この八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」も開設して、3年目を迎えていると伺っております。あらゆるしょうがい者の方とご家族の方が、ご利用されているとのごことでございまして、本当に心強く思っております。

障害者自立支援法が、大変厳しいところがあるということは、県議会議員の時から承知しているところですが、この「リーベル」が発展していくことで、八女地区のしょうがい者福祉が、更に充実されると確信しているところでございます。

私も基本目標として「やさしい八女市」「安全安心な八女市」「明るい市役所づくり」を目指しております。どうか、「リーベル」が、「やさしい八女市」づくり、「安全安心な八女市」づくりの一助となりますように、そして多くのしょうがい者の皆様の支えとなることを心からご祈念申し上げます。

新しい年が皆様方にとりまして、幸せな年でありますよう心からお祈り申し上げます、あいさつといたします。

八女市長 三田村 統之



福祉の視点から

今回は、しょうがいのある児童・成人の療育・訓練機関である、こぐま福祉会「こぐま学園」(小郡市) 理事長 大熊猛氏にご寄稿いただきました。現在、八女市上陽町に地域開放型の施設「みんなの館」の運営にもご尽力されており、「リーバル」に相談に来られた方も利用しています。(写真下:「みんなの館」一部)



「地域支援」の課題 (取り戻そう福祉の心)

社会福祉法人 小ぐま福祉会
理事長 大熊猛



新年を迎えたとは言え、世界中が大変な時代になりました。ここ20年のことではりません。大きな時代の変革のスタートと考えるべきだと思います。

日本では、「社会福祉法」をはじめ「障害者自立支援法」などの整備が始まり、遅れながらも「これから」という時にまたしても不利な条件・要因が出てきました。世界経済の「大不況」は、人々の経済社会が変わるだけでなく、考え方も、価値観も精神状態も大きく変化することになるでしょう。そうした社会は「しょうがい」を持つ人達にはますます「生きにくい」社会になることは容易に予測できます。だから今、ますます地域がみんなですべて支えることが大切になると思います。

日本には昔からそれぞれの地域にすてきな「福祉の心」がありました。先ず親を大切に、兄弟・親戚がしっかりと「氏」を守り、集落では互いに助け合い、米や味噌・しょうゆの貸し借りも日常茶飯事、また集落の政事や個々の家庭の事でも当たり前で助け合い、協働の生活が地域を形成していたことは、多くの人々が知っているはず。それがいつの間にか殺伐とした社会になってしまい、親の老後の面倒を見ないし、わが子ですら虐待や子育ての放棄。その上、母子家庭や父子家庭は年々増加傾向にある。また、この年末からの労働者の解雇や住居、そしてホームレスの問題など、今や日本には昔のコミュニティは全くありません。この先日本はどうなるのでしょうか。

この現状は、高齢者・子ども・しょうがい者だけでなく、一般生活者にとっても不自由な時代となりました。急ぎ、何とかしなくてはなりません。制度や施設作りと同時に、生活者の「心」(精神)を育てることだと思います。人と人とのつながり、コミュニケーションのあり方だと思っています。自分のことだけ。また、全てをお金で解決しようとする習慣。感謝の気持ちや、社会人としての義務観などを忘れてしまった現代人の生活観。これは、子どもの時からの教育や生活習慣のあり方、人間関係作りなどを教えることしかないと考えます。日本古来の素晴らしい文化・伝統を今一度思い起こし、みんなで急ぎ取り戻す努力をしましょう。



お忙しい中、原稿依頼を快くお引き受けいただいた、こぐま福祉会 理事長 大熊猛氏に感謝申し上げます。



「暮らしと福祉の講座」を通して

八女市社会福祉協議会が主催される「暮らしと福祉の講座」(4回シリーズ)において、計2回リーベルスタッフが登場し、お話をする機会をいただきました。会場には、福祉に携わる方はもちろん、地域の方、そして民生委員の方が参加され、熱心に耳を傾けていただきました。年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住みよい地域にするためのヒントがそれぞれの取り組みや助言にあったような気がします。

☆講座：シリーズ第2回目「しょうがい者福祉分野から」



○報告：「八女市のしょうがい者福祉問題に関する現状報告」八女市福祉課 参事補佐兼しょうがい者福祉係長 伊藤 芳浩 氏 (写真：左)、「リーベル」 田島ゆかり
○助言：「しょうがい者の地域生活の移行について」北九州市障害者地域生活支援センター センター長 柳沢 享 氏 (写真：右)

八女市にある一施設における地域移行への取り組みのきっかけは、利用者の意向とそれに何とか応えたいという施設あげての地道な一歩からでした。施設機能を地域の社会資源として十分に活用するには、まず地域の現状を知ることが大切であることもわかりました。障害者自立支援法により地域移行が明確化されましたが、だから地域支援を進めるものではありません。地域での暮らしとはどんなものか知りたい人、地域生活を希望する人がいて、その声に耳を傾け一緒に考えていく姿勢が当たり前な地域でありたいと改めて感じます。地域での生活にちょっと疲れたら、いつでも受入れを検討できる施設があってもいい。疲れを癒して再度、地域での暮らしに戻る。そういうことを実現できる地域が八女なんだといえるように今後も取り組んでいきます。

助言者として快くご協力いただいた柳沢氏に心よりお礼申し上げます。

リーベル 田島ゆかり

☆講座：シリーズ第4回目「まとめ ～つながりと支えあうことのできる地域づくり～」



高齢者の地域生活を支える取り組みの報告、精神障害者の方の地域支援の取り組みについて、シンポジウム形式で話がありました。(写真：左)
○報告：地域活動支援センター「ゆうゆうハイツ」(リーベル2階)の取り組み 主任：野中 (写真：右)

また、講座第3回目では、日頃より「リーベル」と連携をとらせていただき、様々なケースに対応されている八女市男女共同参画・子育て支援課 家庭児童相談員(高倉優子女史)から「児童福祉分野から～八女市の児童福祉問題に関する現状報告」がありました。親子の問題等では「リーベル」にとって大変心強い味方です。



八女市家庭児童相談員の高倉と申します。私は、子どもと子どもの家庭に於ける様々な問題で悩んである方の相談を受けています。昔に比べると世の中は、便利で物が豊かになり、安定している様に思えますが、子どもが育つ環境としては、良い事ばかりでなく、かえって厳しい状況ではないかと思えます。よく言われる少子化や核家族、地域の人と人とのつながりの希薄さも、子育てに大きな影響を与えている様です。毎日色々な相談を受ける中で、やはり大切な事は、一人で悩まないこと。誰かを頼ることも、楽しく子育てをやっていくポイントだと思います。また、今一番深刻な問題とされる「虐待」ですが、その原因としても、前に述べた事が共通として言えます。

周囲の人達の暖かい支援で、虐待を防ぐ事もできます。どうか皆さんも、子どもはみんな育てるという気持ちで見守ってください。



第8回リーベルネットワーク会議開催

平成20年12月13日（土）に、第8回リーベルネットワーク会議を開催しました。今回は、リーベルが日頃から連携を図っている関係機関から事例報告・事業説明を行い、生活・教育・就労について考える機会となりました。また、この会議には、八女地区にある福祉施設の代表者に出席していただいています。そこで、今回、福祉施設同士のネットワークが図れるような部会を立ち上げてはどうか、との提案が行政よりなされ、参加者の方々の賛同を得ました。早速第一回目の会議を予定しています。

家庭ではどうしても生活できない事情を抱える方たちの生活基盤をどう整えていくのか考えさせられます。この部会が地域支援を進めていく上で、地域の実情に密着したより強固なネットワーク構築への大きな一歩になることと期待しています。



①生活支援分科会：(写真左) 八女市地域包括支援センター (高田女史)、(写真左より2枚目)「リーベル」(精神担当：寺川)より事例報告

②教育分科会：(写真右は) 県立筑後養護学校 (秋山教諭)より事例報告

③就労支援分科会：(写真左) 障がい者自立訓練サポートセンター「わ～よか」(大竹センター長、中村氏)より事業説明

★「平成20年度 第2回八女地区障害者自立支援協議会」が、2月23日（月）に予定されています。リーベルネットワーク会議で課題となったことの解決に向け、さらに協議を深めます。



リーベルの職員交代

★身体しょうがい担当(野崎)が、1/21より「ふらっち広場」勤務となりました。後任に、大塚博嗣相談支援専門員が対応いたします。

★児童・知的しょうがい担当(上村：旧姓長野)が、産休でしばらくお休みをいただきます。2月から牛嶋文子相談支援ワーカーが対応いたします。



研修案内

テーマ：「地域で支える体制づくりをめざして」

○講演 「発達障害の早期支援と新しい地域連携」

講師：大神英裕 氏(九州大学大学院 名誉教授)

○パネルディスカッション：「地域で支える体制づくり」

日時：2009年3月7日（土）13:00 開演

場所：クローバープラザ（春日市） 定員：250名

参加費：無料 事務局：発達障害者支援センター「あおぞら」

★問い合わせ：発達障害者支援センター「ゆう・もあ」

TEL:(0947)46-9506

編集後記：

新年あけましておめでとうございます。「顔と顔がわかるネットワーク」づくりという視点から始まったリーベルネットワーク会議をはじめ、多くの支援者のお力添えもあり、リーベルも3年目を迎えることができました。「リーベルは、一体何ばしてくれると？」という質問をよく聞く中で、昨年は、民生委員・児童委員の研修会や学校の保護者会によんでいただき、リーベル業務の説明を行う機会を得ました。多くの方にリーベルを活用してもらうことで、八女地区の福祉の課題を探ることができます。その課題を、さらに協議会等で検討していきます。皆さんの声がより暮らしやすい八女地区へと「Change!」する第一歩となります。スタッフ一同頑張りますので、本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。